



〈サロン・あべの〉11月の出会い  
 今どきの空の旅  
 関空とLCC

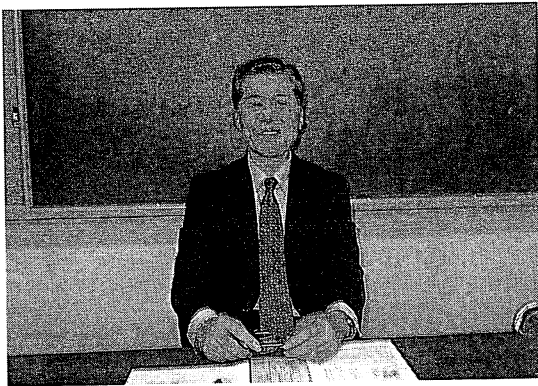


平成24年11月17日(土) 〈サ  
 ロン・あべの〉11月の出会いは、  
 育徳コミュニケーションセンターに  
 おいて、「今どきの空の旅〜関  
 空とLCC」と題して、大阪観  
 光大学教授の中村真典さんにお  
 話を伺いました。中村教授には、  
 以前「空飛ぶソムリエ、サロン  
 に到着」と題して、1993年  
 サロンでお話していただき、そ  
 の時ワインの楽しみ方を教えて  
 いただきました。

・はじめに

1978年に日本航空に入社  
 82年に客室乗務員になる。91  
 93年に伊丹に、関空には200  
 2年に勤務している。2010  
 年、会社で大規模なリストラが

行われ、自分も退職した。退職  
 前、会社ではサービスの訓練を  
 行う部署で長く教育関係の仕事  
 をしていた。仕事探しには、ハ  
 ローワークにも行った。2年間  
 ほど東京と千葉で非常勤講師を  
 やっていた。2012年4月に  
 大阪観光大学で常勤の教員とな  
 る。単身赴任で来ており、大阪  
 で勤務するのは3回目となる。  
 大学では航空学科の授業を行  
 っている。最寄駅は、JR阪和  
 線の日根野。前身は大阪明浄女  
 子短期大学で改組して四年制と  
 なり、名称変更して独自性のあ  
 る観光を特色とする大学となっ  
 ている。



1、航空のお話  
 空港には3レターコードとい  
 って、空港の呼名をアルファベ  
 ット3文字で表記付けられ、割  
 り振られている。例として、羽  
 田HND、関空KIX、伊丹  
 ITMなどとなっている。  
 関空はA滑走路、B滑走路の  
 2本があり、24時間OPENと  
 なっているのはこのみである。  
 関空は規模からいっても、今  
 後もっと活躍できる空港。この  
 前、第二ターミナルができた。

第一ターミナルより、費用を抑えて建設されている。

日本の国土には98の空港がある。数で言えば日本と同じくらい面積のイギリスも100前後の空港がある。一概に多いとはいえない。98の区分は、拠点空港が8、地方管理空港が54、その他が16となっている。また管理での区分は航空会社が3、国が28、地方自治体が67の区分となっている。

関空は、昭和49年に位置が決定して、泉佐野市沖の大阪湾に出島型の飛行場作りに昭和57年に事業着手した。関空は埋め立てた地盤の上に建設されているので、その下は粘土と砂がサンドイッチ状になっており、それは軟弱で今も沈み続けている。毎日沈下チエックをして、建物等の安全な調整が行われている。関空は、今後、伊丹空港と経営運営を統合する計画が進められている。

伊丹は国内線が集中しており、それぞれ良い所をどう生かして運営していくかが求められる。

## 2、LCCとは

LCCとは、ローコストキャリアの略で格安航空会社のこと。特に外国LCCがどんどん来ている。日本のLCCは、今3社が飛んでいる。関空からはピーチ、成田か

らジョットスタージャパン、エアアジア・ジャパンが運航している。いよいよ日本もLCCの元年になった。関空から成田まで3900円の値段は、夜行バス9800円のバスより安い。

LCCが安い理由は、人件費を抑えるために機内の清掃など1人が何役もこなす。また、無料サービスの切り詰めなど、細かい節約の積み重ねが行われている。

機内食や手荷物等にも料金が必要になる。飛行の予定時間が遅れることもある。また、欠航でも替わりの便はださない。遅れてもいい。その日のうちに到着すればいい等、何かあつた時の対応が弱いので、その点を押さえて利用すると割安の飛行を楽しめる。が、計画を立てている場合、予定が狂う場合があるので、利用の選択が必要だと考える。

LCCの座席シェアは2001年が7.8%であったが、2011年には、24.3%で4分の1までに成長している。日本は昨年まで0%、主要国内線LCC座席数シェアは79%、インドメキシコ、マレーシアで50%を超えている。日本はこれからどこまで伸びるのか…。

国際線のLCC座席数シェアは、ヨーロッパがLCCを伸ばしている。日本の航空

会社は、現在の航空機利用者をLCCに向けるのではなく、新幹線など鉄道を利用している人をどのようにして、LCCの飛行機を利用してもらうかと考えることが必要。また、日本人とLCCとの相性も大切だ。とにかく安さは魅力である。LCCは旅行代理店を通さず、自社でネットにより手続きを行う。LCCの今後の発展には日本は空港にかかるコストが高いので、コストの値下げが求められる。LCCの健全な発展が、日本にとって飛行機利用の選択枝を広げる機会であるが、バランスをとっていくことが重要と考えている。

参加者に感想を聞きました。

「昔、飛行機を利用して旅行をした。本当に楽しかった。」

「航空のいろんな話が聞けて良かった。」  
LCC飛行機の旅行が快適で安くなり、今後より身近になっていくには、これからどう利用するか、選択する必要があると思います。また、飛行機からの景色や料理など、そこしか体験できないことを楽しむことも大切であると感じた(サロン・あべの)11月の出会いでした。

(参加者11名 山村貴司)

## 美智子のこんな話

岸田美智子

「支援」という本を見つけてました！

私は、普段仕事で色々な障害者の仲間の支援に関わらせてもらっています。

でも、「支援」と言うのはどうゆうことなのかと悩んでしまいます。障害者の当事者と支援者の関係はどのような関係がいいのか？

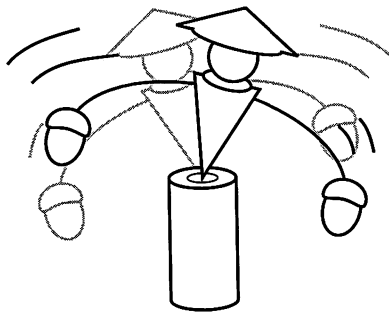
それは、身体障害者、知的障害者、精神障害者などの障害の種類によっても、違いが大きいと思います。ある人は障害当事者の運転する車に支援者は乗る関係で支援していくのが良いと言われていました。例えばよくでてくる問題にお金の使い方や健康管理などがあります。携帯電話料金に5万、10万も払ってしまい自立生活が出来なく

なったりしますし、好きなジュースやお菓子ばかりを食べてしまい体重がどんどん増えて80キロ以上になり、介助ができなくなってしまうこともあります。このようなケースの場合、支援者がどんなハンドル操作をしていけばよいのが、大変難しい問題にもなります。自立生活がたとえ続けられなくなっても、そんな失敗体験をしてみないと分かってもらえないケースも多いです。

その場合、支援者は自立生活が続けられなくなるのが分かっているながらもそれを見守っていくしんどさもあります。そしてどれぐらいの失敗で、ブレーキをかけるかが支援者に問われてきます。

相談支援の考え方の中で、当事者という言葉をよく使いますが、この「支援」と言う本の中では、当事者という言葉は支援者側の為の言葉であり、支援者の中にも当事者はいるし、支援者はいつでも逃げ出せるし、責任逃れが出来る存在だという事を自覚する為に作った言葉だと書かれています。また、当事者はどこへいくという内容も書かれていて、私はとても興味を持ちました。この「支援」という本はシリーズもので、出版元は生活書院です。支援のあり方をも

う一度考えてみたい方は、ぜひ読んでみて下さい。



# 死ぬ権利

ある授業のなかで高齢者施設のソーシャルワーカーが、高齢者の「生きる権利」について熱心に語ってくれた。そのあと学生たちの感想を聴き、議論を進めていくのが私の役目だった。

ひととおり学生たちが発言し終わると、私は彼らに聞いてみた。「生きる権利というのは、わかるけど、死ぬ権利もあるんじゃないかな、特に高齢者にはね。」学生たちは驚いた様子で「死ぬ権利なんてあるんですか？」と言っていた。

「それは、あるよ」と私は答え、父が最後に入院していた病院の様子を話した。そこでは意識もないままにチューブを腹部につけられ、そこから栄養を入れられ、狭い病室に寝かされていた老人たちが何十人といった。

私とその部屋を訪れたのは、ちょうど「食事」の時間で、看護師が無言のまま機械的にシユツ、

シユツと巨大な注射器のようなもので液状になった「食事」を注入していた。まるで植物に水を与えているような、機械に油を差しているような感じだった。あるいは何か生物学の実験で生きた肉の塊（かたまり）を「培養」しているようだった。老人たちは、みんな血色が良い丸い顔をしていて、もちろん目はつぶつており、普通の人間にはありえないような姿で、私は気味の悪い映画を見ているような気持ちになった。

家族は、きつとこの姿を正視できないのではないだろうか。その証拠にベッドの横には、ほとんどの人が入る空間もなく、物置に人形を並べているような状態だった。病院の職員以外はほとんど誰も訪れないのだろう。

母は、そこに夫を眠らせている高齢の女性の話をしてくれた。彼女は、もう何ヶ月も何年も意識のない丸い血色のよい夫の顔をなでながら涙を流していたそうだ。夫は、こうして生きて、家族に年金を渡しているのだという。

夫の年金は、夫が死ねば、もちろんなくなる。そうなれば、妻の収入が減ってしまう。もちろん、そんな年金のために妻は夫に生きてもらいたいと思っているわけではないだろう。

死なせてもらえないのだ。夫には死ぬ権利がなかったし、妻には、夫の安らかな死を願う権

利がなかった。水も食べ物も自分で口にできないほど衰弱したときに、医師は当然のようにチューブを患者につける。命をできるかぎり守るというのが、医師の役割だからである。

そして、父の腹部にもチューブをつける手術を提案した医師に対して、私は、父には安らかな死を望むと伝えた。しかし、それは聞き入れられなかった。私は、まったく不条理に思えるその医師の判断に怒り、別の病院を探そうとしたが、他でも答えは同じだった。医療は命を救うものであり、死なせるものではないのである。

幸い（と、私は言う）父の腹部には腫瘍のようなものがあることがわかり、チューブはつけられなかった。そして、あの悪夢のような病棟に入ることなく、父は死んだ。死は父を救ったのだと私は本気で思っている。

人には死ぬ権利があるはずだ。そんなものはないという人は、肉の塊になって人工的に生かし続けられる老人たちの間に横たわり、絶望的な静寂のなかで「生きた遺体たち」から声を聴くといいい。その耳には死ぬ権利を奪われた魂の怨嗟（えんさ）の息が何度も繰り返して響くにちがいない。

（知）

## お便り

昨日「サロンあべの vol.316」を拝受致しました。いつもきちんと送ってくださり恐縮至極です。1面のDVD鑑賞会『阪急電車』片道15分の軌跡』の記事、大変興味深く読ませて頂きました。

というのも、先月28日、母校関西学院の書道部創部55周年記念同窓会が母校であり、阪急梅田から西宮北口で乗り換え甲東園で降りて、今から48年前に入学して以来4年間、毎日通った行程を感慨深く振り返りつつ会場に赴きました。

そして、北口から甲東園までの電車の中の雰囲気とその当時と変わらぬ人間同士の思いやりや温かさを感じ、大変豊かな気分になったばかりでした。(これは天王寺から上町線で北畠や姫松へ向う電車の中でもしみじみ感じることですが・・・)。

1面の小気味の良い記事を読み、共感を覚えた次第です。

ところで、このDVD、是非私も見たいのですが、どのようにしたら手に入れられるのか、お教え頂ければ幸いです。

11/14

奈良・新大宮

井関通弘

## 晴れのち晴れ

稲垣 恵雄

## ■「竜年」をふり返って

早いもので平成24年もあとわずかまで終わろうとしている。今年の干支は「タツ」だったが、他の干支に生まれた人は何人か知っているが、タツ年生まれの人誰も知らないし、この1年の間にも会ったことはない。

「竜」という字は「タツ」の他に「リュウ」とも読むが、「リュウ」といえば「独眼竜」とか「臥竜」という熟語、つまりすぐれた人や有名人を思い出す。

更に「竜」といえば「登竜門」ということばを連想する。登竜門とは「困難ではあるがそこを突破すれば立身出生ができる関門のこと」でよく作家の登竜門などと言われる。この登竜門には芥川、直木両賞が



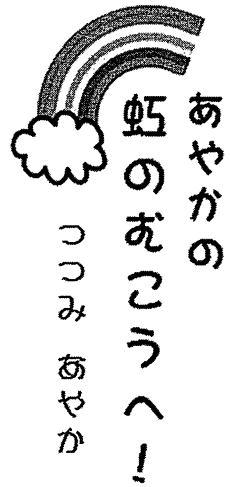
ある。

今、私は今年芥川賞を受賞した島田真希氏の「冥土めぐり」を読んでいる。これは「夫をめぐる、失われた過ぎし日」のことが綴られているが、どこを読んでもその場面が鮮やかに浮かび表現力のうまさに脱帽した。

ところで我が家のリビングの本棚に直径30センチ位の大きさの黒塗りのお盆に金文字で「飛竜在天」と書いた楯、我々にとどまることなく飛躍しなさいと教えてくれているのだろう。ともすれば怠けや

すくなる私は時々この楯を眺めては励まされ、勇気づけられているのである。

この1年も公私ともにいろんなことがあったが、一言でいえば可もなく不可もなく平凡に健康で過ごすことができ喜んでいる。



数が非常に少なく、自分の身の回りには、誰もいないし、診てもらうには、専門医のいる大学病院で何ヶ月も予約待ちをしなければならぬ状況には変わりありませんでした。それは、まるで深い霧の中をさまよっている様な感じでした。

深い霧の中をさまよいながら千葉の心療内科の先生の所へ通った結果、女性として性別を変えて生きるメリットは何もないと結論を出して、

とにかく男性として生きる事になりましたが、精神的な苦しさは何も変わる事なく、無理やり抗うつ剤等の薬漬けの生活が続きました。

何とか復職したか?と思えば、通勤途中の駅で倒れたり、職場へたどり着いても、結局は社内の診療所のベッドで横になるしかない日々が続きました。

また、セカンド・オピニオンで別の医師に診てもらった結果が「アスペルガー症候群」ではないか?と言われて、診断書に書いてもらったものの、当事者の書いた本をいくら読んで、自分には当てはまらなかったですし、やはり、性同一性障害を抱える人が書いた本を読んだ方が、自分に当てはまる感じがしてなりませんでした。

しかし、それを診断する事のできる専門医の

フライング・スタート、苦しみの中の決意、

そして、2009年の春に、また会社を休職する事になってしまいました。会社には休職はできるものの、もう傷病手当も付く事はなく、生活費も治療費も実費で出さなければならぬ事になりました。もちろん、そんな状態では、そのまま退職せざるを得ない状況になるのは、目に見えています。

「男性として、このまま朽ち果て死を選ぶか?それとも、例え罵倒されても、女性に性別を変えて生きる事を選ぶか?」の二者択一を迫られる状況まで追い込まれて、私は、後者を選びました。

まずは大阪市内に、女性ホルモンの注射を打ってくれる病院を探し出して、自己判断で注射を打ってもらおうと同時に、インターネット等で、去勢手術をやってもらえる病院も探し出して、ある地方都市の病院へ手術の予約をしました。

「フライング・スタート」。これは、性同一性障害を抱える患者の間で呼ばれている言葉で、大学病院等の専門医の間で決められた治療のためのガイドラインを逸脱し、専門の精神科医のカウンセリングを飛ばして、無理やり次の段階であるホルモン投与や手術を行って、「事後承諾」で精神科医の診断書を得ると言うものです。

本来ならばやってはならない事なのですが、もはや、今の私には、そんな状況にはありませんでした。万一失敗したら、それこそ、自己責任で死ぬ事も覚悟の上での行動でした。

そして、5月の初めに、某地方都市にある病院で去勢手術を受ける日がきました。

執刀医の先生は、手術の前に「大丈夫ですか?」と聞かれたのですが、私は、きっぱりと「まな板の上の鯉です。」

よろしく願います。」と答えました。

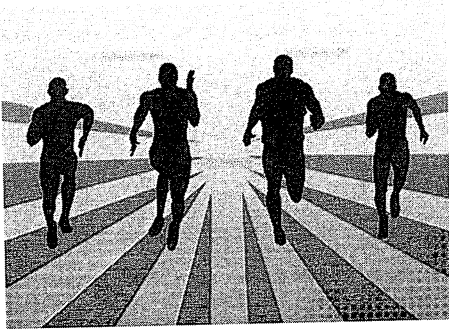
局部麻酔だけの手術で、三時間ほどで終わりました。術後の経過も順調で傷は、まもなく癒えました。私にとつては、生まれて以来、ずっと「毒素」を出し続けてきた悪性の腫瘍の様なものがなくなり、ようやく安堵を得る事ができましたが、それを医者でもある兄に事後報告とお詫びのメールを出しました。

受け取った兄は、大変なショックを受け、一

晩中泣いていたとの話を義姉から聞き、とても悪いことをしてしまったと思いつつも、とにかく、私は生き続けて行くのだと言う事。そして、これも事後承諾になるけど、すべての手術を終えて戸籍の性別も変え、とにかく会社に復職して、少しでも安心してもらう事をしなければと思いました。

その一方で、女性ホルモンの投与や去勢手術を行った事を五年前に診てもらった大学病院に電話で相談したところ、再診扱いしますので、すぐに来てくださいと話がありました。

ルール違反とは言え、命懸けの行動が、ようやく明日へと繋ぐ事ができたと思えました。しかし、まもなく大きな試練が待ち構えています。(つづく)



## お知らせ

### <サロン・あべの> 1月の出会い

- 内 容：はつはるの シャンソンライブ  
～オープニング「明日は月の上で」、  
第1部「歳月」…5曲、  
第2部「さげび、ささやき、モノローグ」…  
6曲～
- お客様：歌い手=山岸麻耶さん、演奏者=辻本貴子さん
- 日 時：1月19日(土) 1時～4時
- 場 所：育徳コミュニティーセンター、研修室  
[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
2階、スロープ、車イストイレ有、  
TEL06-6621-1901]
- 会 費：なし
- 問合せ先：TEL・fax06-6691-1028  
(富田慶子)



○カンパ、飲食物、宛名シールのご提供等、  
ありがとうございます。  
平岡太、宮脇信子、その他(敬称略)

サロン・あべの毎月の感謝



1月はどこのサロンの、  
どのテーマが  
お気に入りですか。  
いい出会いしませんか。

■「サロンいたみ」1月の出会い

日時：1月19日(土)午後2時~3時

内容：「リース作り」

参加費：なし

場所：伸幸苑(伊丹市寺本6-150)

問合せ先：安藤れい子TEL072-784-1718

■「サロン淀川」1月の出会い

日時：1月20日(日)1時30分~4時

内容：「やすらぎ寄席」

1月は恒例のやすらぎ寄席で、  
ええあんばいで笑っていただきます。

ゲスト：「朋友会」メンバー芸能ボランティアグループ

場所：「やすらぎ」淀川区社協

大阪市淀川区三国本町2-14-3

問合せ先：淀川区社協TEL06-6394-2900

■「ウイズ東淀川」1月の出会い

日時：1月13日(日)午後1時30分~4時

内容：ハンドサイクルで日本一周分割の旅~

下肢障害のため、手漕ぎ自転車で行った日本一周と、  
ゴム一周を達成!!

ゲスト：神原史直氏

場所：NPO法人自由空間クラブ

(東淀川区淡路5-10-7

阪急京都線淡路駅西口より6分)

会費：なし

問合せ先：TEL06-6340-3082(鈴木昭二)

■「サロンにしよど」1月の出会いはお休みです。

■「サロンにし」1月の出会い

日時：1月12日(土)2時~4時

内容：「書初め」を楽しもう!!

\*用具は準備していますが、使い慣れた筆や用紙が  
あれば、ご持参ください。

ゲスト：未定

会費：なし

場所：西区在宅サービスセンター(西区北堀江4-2-7)

(地下鉄千日前線、つるみ緑地線、長堀駅下車すぐ)

問合せ先：宮脇淳TEL090-3949-6973

隣りのテレビ

♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪

早春にうたう~ディナーショー~

奥田真祐美

テーマ：CDアルバム・発売記念

「奥田真祐美ジャン・フェラを歌う」

演奏：ピアノ=しかわまこと

ヴァイオリン=西川葉子

日時：2月9日(土)17時30分開宴

(17時開場)

場所：大阪新阪急ホテル・花の間(2階)

大阪市北区柴田1-1-35

TEL06-6372-5101

会費：20,000円

(仏フルコース・全席指定)

申込み締切：平成13年1月15日

問合せ先：奥田真祐美office okuda

TEL・FAX06-6692-8774

〒545-0014

大阪市阿倍野区西田辺町1-20-34

♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪

<サロン・あべの>Vol.318 発行：平成24年(2012年)12月15日 定価¥100  
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆  
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941  
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212  
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/「サロン・あべの」でも検索できます

一九九一年九月三日第三種郵便物承認毎月(一)・二・三・四・五・六・七・八の日発行